

令和5年度 加藤学園暁秀高等学校・中学校 自己評価

校訓	至誠・創造・奉仕
教育の柱	人間教育・大学進学教育・国際理解教育
教育の目標	校訓のもと、豊かな人間性を持ち、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成を教育の目標としています。
本校の特徴	生徒個々に応じた細やかな進路指導や少人数での授業及び講習を通して、国内・外の難関大学を含めた大学への進学希望を叶えることを目指します。また、日本で初めてIB(バカロレア機構)の認定校となり、バイリンガルコースでは中学では授業の約半分、高校では国語・体育以外の教科を英語で行い、アクティブラーニングの先駆校となっています。
概況	静岡県東部地区においての人口が年々減少しており、生徒募集は厳しい時代になっています。暁秀中高では、生徒個々の進路希望を叶えられるように細やかな指導を行っており、募集活動を通じてその指導内容や実績を様々な方法でアピールをしています。また、新型コロナウイルスに感染症が5類感染症に変更され、暁秀祭や修学旅行等多くの行事も従来に近づいた形で実施する事ができました。

自己評価(学校全体に対する評価)

評価項目	活動項目(指導項目)	活動状況	達成評価 5段階	昨年度の 評価	良かった点や反省、次年度以降の方策など
○授業等について	ア 教員の資質向上への取組	各教科で研究授業を行い、見学・反省会をすることで各々研鑽をつみ、授業の改善へと繋げる。	3.4	3.3	各教科での研修、公開授業を行うことができ、中学では授業参観を行うことができた。来年度は、授業参観を全学年に拡大できるものと思われる。
	イ 説明・板書・発問の方法や実践	日々において、魅力ある授業やわかりやすい授業を考察し実践する。	3.7	3.8	以前のような授業形態が復活し、グループワークや、プレゼンテーションなどが行えるようになった。
	ウ グループ学習	生徒自身が考え、発言できる授業への取り組みをする。	3.7	3.6	総合学習や修学旅行事前学習においてグループワークを行い、それを発表する場を設けることができた。またその発表を振り返ることで、次の学年の学習に繋げている。
	エ 学習に適した環境・学級経営	習熟度別授業を多く取り入れ、生徒個々の進路や学習状況に応じ、少人数の授業も多く展開している。	4.1	3.9	学校全体では、1つの授業における生徒の人数を平均してみるとかなりの少人数となる。できる範囲で習熟度別にしたり、少人数によって理解を深められる授業を展開している。
	オ コンピュータや情報を活用した授業	情報機器等の授業への活用を実践し、教材やソフト等の研究を進めている。	3.9	3.7	教科により、パソコンの使用頻度、目的は違うが、原則生徒は1人1台のパソコンを用意して課題の提出や授業内の調べ物、あるいは総合学習での活用を行った。
○教育課程	ア 教育課程の編成・実施についての教員間理解	中学と高校の関連を考えた授業を行い、各コースの到達目的に沿った教育課程の精査と改善をする。	3.7	3.7	高校2年生は新課程で、先の大学入試の変化も踏まえ、指導内容等、順次対応を進めている。
	イ 授業時数の確保・実践	夏期や冬期の講習や放課後の講習を通じて、授業内容を補完し、実践力をつける。荒天による休校時の授業補填を行う。	4.2	3.9	昨年度に比べて、通常の形態での授業が実施できたことが評価の向上に繋がったと思われる。夏期、冬期の講習の実施も予定通り行うことができた。
	ウ 観点別の評価・評定の状況	観点別評価の評価方法については、教務部の指針を基本とし、各教師が取り組む。多面的に生徒の力を測り、考える力を育む。	3.7	3.8	高校が観点別評価で2年目に入った。教科においては観点別評価方法に差異があり議論もしてきたが、この数年で新しい評価の方向性が確立されてきた。
	エ 図書館の活用、読書活動の推進	中学校では、朝読書の時間を毎日10分間設けている。また、読書カードを図書委員が中心となって集計し、クラスや個人で競い、年度末に表彰している。	3.6	3.7	朝礼前に読書の時間を設け、日頃の読書習慣をつけるようにしている。また、図書館の貸し出し冊数ランキングを行ったり、読書カードで生徒同士で本を推薦する等の工夫を行った。
	オ 体験活動の実施状況	中学では合宿・修学旅行・CS活動等の実体験を通して、地域についての理解を深め、多面的に考察する。高校では進学に繋げていくための職業学習、大学見学を実施。医療に関する体験の機会も得られる。	4.0	3.9	ほとんどの体験学習を実施できた。リモートに切り替わったものもあるが来年度はよりコロナ以前の状況に戻れることを期待している。
	カ 部活動の実施体制・状況	遠距離通学者もおり、中学・高校ともに部活動は希望参加。文化部、運動部ともに活動場所や練習時間が十分とれないが、工夫をして充実した活動をしている。	3.8	3.4	部活動も、中高ともにほとんどの公式戦が行われ、徐々に活発に行えるようになってきた。
○進路指導	ア キャリア教育について	殆どの生徒が大学への進学を希望している。文理・国私選択や大学・学部学科選択に繋げるように講演会やオンラインでの大学説明等を行っている。	4.1	4.1	自分の将来の目標を早く定め、それに向かって計画性を持って学習する姿勢を早く作れるように中高の学年毎に計画を立てて進めることができた。
	イ 職業観の育成、地域との連携	本校の卒業生に創立記念式典等で講演してもらい生徒たちの進路選択のきっかけとしている。地域の企業で仕事をされている方から仕事の内容ややりがい話を聞いていただいた。	3.7	3.8	学年によりSDGsについて考えたり、地域の問題についてまとめるプログラムも行った。生徒達が人や地域について関心を持つことで将来の職業観に繋がって欲しい。
	ウ 大学進学指導について	有名私立大学の方に来校してもらい、高校3年生1人につき2つの大学の話が聞けるような説明会を実施した。	4.2	4.3	具体的な志望校を決定する上で、首都圏を中心として大学に依頼をして、オンラインなども活用しつつ各大学の特徴を生徒に説明したり、遠足で実際に大学を訪れ、具体的なイメージをもてる機会を設けた。
○生活指導	ア 教職員全体の意識	自分のクラスだけではなく、学年団全体で生徒を指導していくことを心掛け、指導する人に負担が集中しないように心掛ける。	3.7	3.5	生活指導部を中心として、学年主任、クラス担任の情報共有を徹底している。また、保護者との連携を丁寧にとることによって、問題が大きくなる前に防ぐことができています。
	イ 問題行動への対応	報告、連絡、相談をしっかりと行い、問題を共有し担当教員だけが問題を抱え込まない。問題行動には処罰ではなく指導という視点で保護者に対応する。	4.0	3.9	問題行動の発生時には、生徒の人権を尊重しつつ寄り添うよう心がけている。該当生徒に、問題が起きた原因を理解させ、それを繰り返さないよう生徒自らが考えられるよう継続した指導を行っている。
	ウ スクールカウンセラー等教育相談の現況	保健室の教員を中心として生徒の相談にのっている。また、スクールカウンセラーの先生を1人お願いしている。	4.2	4.3	スクールカウンセラーを配置している。生徒はもちろん、保護者の利用も促している。保護者は、担任を過ぎずにカウンセラーと日程が合わせられるようになっている。
	エ 基本的な生活習慣を身につけさせる工夫	担任を中心として、生徒の面談、長期休暇前の三者面談、放課後の指導や部活顧問との連携、時に応じて家庭訪問を行う。	4.1	3.8	長期休暇前の三者面談を通して、家庭での様子、学校での様子の情報交換を行い、家庭と連携して生徒の生活習慣の指導を行った。場合によっては家庭訪問を行った。
○保健管理	ア 感染症予防に対する取組	新型コロナウイルスは5類感染症に移行したが、一方でインフルエンザの感染者が増加。そのため消毒液、検温の器具等の設置は続けている。場面に応じて、換気を促しマスクの着用も推奨している。	4.4	4.2	感染者数が増加し始める段階で、学級閉鎖を行った結果、感染拡大を抑えることができた。保健委員会が生徒主導で対策への注意喚起のポスター作成を適宜行った。
	イ 薬物乱用に対する意識向上	年間計画の中に薬学講座を設けて、全学年の生徒が薬物に対する最新の知識を身につけ、危険薬物についての認識を深めている。	4.2	4.0	薬学講座は、感染対策のため密にならぬように人数を抑え、換気も行った上で体育館で行う事ができた。生徒達は薬物依存の恐ろしさや薬物の犯罪性について深く学んだ。
	ウ 健康診断・健康観察・疾病予防	既往症についての把握、合宿など宿泊や食事を伴う行事での食物アレルギーについての事前調査を必ず実施。健康診断は夏までには終了。(歯科・耳鼻科眼科・内科・レントゲン・心電図等々)	4.4	4.3	年度当初に予定されている生徒・教員の健康診断は予定通り行う事ができた。
○安全面	ア 施設管理や点検	多くの職員が目で見ると危険と思われる箇所を指摘してもらい、すぐに対処している。施設の補修も行っている。	3.8	3.8	例年通り、水質、配管、防災設備など法令で定められている点検はしっかりと実施した。また、今年度は外庭の樹木の伐採を行った。
	イ 緊急時の対応(悪天候等)	遠距離通学者も多く、荒天が予想される場合は各家庭で安全を最優先して登校の判断をしていただいている。臨時休校の際には予備日に授業を確保している。	4.3	4.1	風水害による臨時休校が1日あったため、追加授業日を設定し実施した。荒天時は欠席扱いとしないことを前提に各家庭の判断での登校とした。
○保護者との連携	ア 保護者との連携と生徒のボランティア精神を育てる	感染症の状況が落ち着いてきたことから、保護者との連携を取りながら新しい形のバザーを展開した。外部ボランティア活動も教員の委員会が中心となり、生徒に紹介・推奨した。	3.8	3.8	以前のバザーの形とは大きく異なるものであるが、昨年よりも規模を拡大し、SDGsを意識した生徒達も楽しめるバザーが行えた。制服に加え部活着のリサイクルを取り入れた。感染対策をしつつ衛生管理に配慮した。
	イ 地区会活動	各地区が主体となり、保護者、生徒、教員が協力してボランティア活動等を行う。今年度は殆どの地区で会合や、ボランティアなどのイベントが行われた。	3.6	3.2	地区会活動を行うことができた。沼津地区は計画予定の前後に感染者が増加したため、急遽活動をキャンセルせざるを得なかった。次年度は、防災・減災活動の面からも、再び地区会活動が例年通り行えることを期待する。
	ウ 学校便り・学年通信・ホームページの活用	学年便りを毎月発行し、行事予定や部活動の結果を載せている。ホームページにも生徒の活動や行事などを掲載し、メールを活用して保護者へのお知らせなどを配信している。	3.7	3.9	ホームページの更新が頻繁に行われ、部活動や様々な行事における生徒の様子を保護者に知っていただけた。また、動画の視聴で他校の生徒が本校を知っていただく機会にもなっている。
○保護者の満足度	ア 授業に対する満足度・評価	日頃の授業、講習、質問に対する教師の指導等に対する満足度	4.7	4.2	
	イ 施設や環境等に対する満足度・評価	校舎内外、教室、運動施設、移動方法等の満足度	3.3	3.5	令和5年度においては、バザーは昨年度の実例を参考にしながら多少規模を拡大した形で実施でき、高評価であった。また施設については校舎の古さを指摘いただき、能登半島地震のニュースを受け、本校の耐震は大丈夫かと問う意見や、私立として運動施設の整備・充実を望む声もあった。
	ウ 行事に対する満足度・評価	遠足、合宿、修学旅行、学校祭に対する満足度	4.0	3.8	